分娩直後の母親の行動と母子相互作用

野　村　紀　子（北里大学病院）
○島　田　信　宏（　　〃　　）

"分娩直後の母親の行動と母子相互作用"の今後の展望

上記のテーマによって，分娩室での母親と新生児との，初回対面時に，母親の行動パターンに，２種類あるという事実に気ばついたことが，今回，この研究にとりかかる動機であった。しかし，この研究にとりかかる準備は，決して十分ではなく，マターナル・アタッチメントに関しての文献もないことから，我流による調査表によって，調査にとりかかった。調査件数は，1,000 例以上を目標としたが，結果は，８００件数にすぎなかった。時期的にも，目標の1,000例にみたないまま，調査期間を終了しなければならなかった。調査を終了し，"まとめ"の段階で，なお，２～３の疑問を持たざるを得なかった。また，この調査から，さらに発展させ，今後の課題にする必要のあることを痛感する。

今回のこの研究は，第１回目の研究でもあり，分娩直後の母親が，その新生児との初回対面時に，"ふれるか"，"ふれないか"との母親の行動パターンの比率をみることを，第１の目的とした。次に，"ふれる母親"と"ふれない母親"との間に，どのような特長があるか，否かをみることを，第２の目的とした。

結果としては，"ふれあい母親"は，全体の 78 %を示し，２２%の母親が，"ふれない母親"であることが明確になった。しかし，第２の目的である，"ふれる母親と"ふれない母親"との間に，著しい特長をみることはできなかった。"新生児にふれる母親"の傾向として，義務教育以上の学歴を有する母親で，かつ，妊娠，出産に対して積極的な姿勢のあることが，認識されたにすぎない。

今後は，

(1) 調査件数を，1,000件以上とすること。

(2) "ふれる母親"と，"ふれない母親"との年令別比較。

(3) "ふれる母親"と，"ふれない母親"について，それぞれ，年令。学歴。希望として妊娠したかどうか。妊娠中の乳房の手当ての有無。初回対面時間。分娩様式や麻酔の種類などについての調査。

また，ボウルビイの説にもあるように，母親の行動は，母親自身の本能的行動によるものではなく，新生児の行動（表情）によって，それぞれの母親が行動を起す因子となる。

(4) 新生児の表情（睡眠中，レム睡眠，泣いている，目を開けている，など）の状況と，その時の母親の行動とを比較する。

マターナル・アタッチメントに関する文献は，十分にないこともあり，研究を進めるについての難解さを感じるが，以上の４点について，今後の研究課題としたい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

“ 分娩直後の母親の行動と母子相互作用"の今後の展望

上記のテーマによって,分娩室での母親と新生児との,初回対面時に,母親の行動パターンに,2 種類あるという事実に気ばついたことが,今回,この研究にとりかかる動機であった。しかし,この研究にとりかかる準備は,決して十分ではなく,マターナル・アタッチメントに関しての文献もないことから,我流による調査表によって,調査にとりかかった。調査件数は,1,000 例以上を目標としたが,結果は,800 件数にすぎなかった。時期的にも,目標の 1,000 例にみたないまま,調査期間を終了しなければならなかった。調査を終了し,“ まとめ"の段階で,なお,2〜3 の疑問を持たざるを得なかった。また,この調査から,さらに発展させ,今後の課題にする必要のあることを痛感する。